

### 3 友達の嫌がることをして気を引くC男(3年生)

#### 学習・行動上の特徴

学習の遅れが目立ち、計算することや、読んで考えたり、文字を写したり、作文を書くことなどが苦手である。気が散ることも多く、一斉学習では常に配慮が必要で、個別指導を要する。

学習中に立ち歩き、教室から出て行くことがある。ルールが守れず友達の嫌がること(たたく・ける・ぶつかる・噛む・唾をかけるなど)をして、気を引こうとする。

また、当番活動に参加せず、注意されると反抗し、謝ることができないこともある。

学級での集団遊びは参加して楽しんでいるが、ルールは十分守れていない。

低学年の時は、母親が学校に来ると母親から離れられなかった。

#### 特徴の考察

視覚認知能力の問題が、学習活動全般へ大きな影響を与えていると考えられる。

本児の場合、感情をコントロールする力の弱さだけでなく、「嫌がること」をすることによって自分の存在を訴え、承認を求めている面があると考えられる。

心理的に不安定な様子、とりわけ母親への愛情を求める母子分離不安な状態があったので、母子関係の安定には、今後も留意する必要がある。

#### 援助・指導の方針

本児は、重複言語性LDに近い様子を示している。言語能力の弱さと併せて、注意集中困難や社会性の未熟さがあると考えられる。行動目標を絞って明確にさせ、見通しのある活動をさせ、自信をもたせるよう援助したい。

生育歴からは、母子関係の不十分さが明らかになっている。援助を通して情緒的な安定を図るとともに、母親との教育相談を行い、家庭での本児の安定も図っていききたい。

学習面の遅れについては、本児は視覚的な刺激に対して比較的よく反応・認識するので、具体的な視覚的援助を活用して理解と定着を図りたい。

ロールプレイなどによって、友達とのやりとりや集団活動のルール、社会的な場面での行動の仕方を学習し、対人関係を円滑にしていきたい。

#### 留意点

本児については、注意を向けさせる工夫をするとともに、集中できる時間を把握して課題を組み合わせ、集中できる時間を次第に長くするようにしていきたい。

本児にとって楽しい内容のものを選ばせて意欲を引き出し、自己コントロールの力をつけていきたい。

学級担任との連携や学校体制での援助を配慮したい。



